

日本語・イタリア語対照研究

— 「花語彙」を中心として —

古 浦 敏 生

§1 はじめに

美しい花を愛でるのは、洋の東西を問わず、万人に共通した思いであろう。日本では「富良野ラベンダー祭り（北海道）」、「山形紅花祭り（山形県）」、「潮来あやめ祭り（茨城県）」、「尾道菊人形（広島県）」など、各地に花祭りが存在する。イタリアでも、ローマ近郊の古都ジェンツァーノ（Genzano di Roma）では、花びらを道路に敷き詰めて美しい花の絵を描く「ジェンツァーノの花祭り」が有名である。また、シチリア島のアグリジェント（Agrigento）では、民族衣装に身を包んだ人々が花飾りの馬車でパレードする「アーモンドの花祭り」が行われている。

日本では「菊（注1）」と「桜」が、イタリアでは「雛菊（margheritina）」が、それぞれ国花として制定されている。また、日本では、47都道府県ごとにシンボルとしての花が制定されている。たとえば、ハマナス（北海道）、ソメイヨシノ（東京）、シダレザクラ（京都）、ウメ（福岡）、デイゴ（沖縄）など（注2）。イタリアでも、トスカーナ州の州都フィレンツェ（Firenze）は「花の都」と呼ばれ、ユリの花が市の紋章となっている。このように花は、日本でもイタリアでも美しいものとして尊重されている。

また、日本では、「花」を構成要素とする地名が存在する。たとえば、「花巻市（岩手県）」、「花泉町（岩手県西磐井郡）」、「花沢市（山形県）」、「花山村（宮城県栗原郡）」、「花園町（埼玉県大里郡）」、「花見川区（千葉市）」、「立花町（福岡県八女郡）」など。イタリアでも、ラテン語 *flos* 「花」を語源とする地名が存在する。たとえば、Fiorenzuola d'Arda（エミリア・ロマーニャ州）、Firenze、古形 Fiorenza（トスカーナ州）、Fiorenzuola（トスカーナ州）、Floresta（シチリア州）、Floridia（シチリア州）、Florinas（サルデーニャ州）など。

このように、日伊両国の人々には花に対する共通した思いが存在するので、日伊両言語における花にまつわる語彙（「花語彙」と略称）を対照させ、両言語の特徴を抽出してみようと思う。

§2 用例

日本語の「花」は、基本的には、イタリア語の「fiore（注3）」に対応する。しかし、ラ

テン語の *flos* 「花」を語源とする語（たとえば、*floridezza* 「繁栄」）も多々存在するので、それらも含めた全体を「花語彙」として対照させていきたいと思う。

「花語彙」のデータは以下の資料から収集した。略号とともに列記する。

秋山余思監修『ブリーモ伊和辞典』、2011、白水社（略号『ブ伊和』）

池田廉ほか編『伊和中辞典』第2版、1999、小学館（略号『伊和』）

岩波書店辞典編集部編『逆引き広辞苑』1992、岩波書店（略号なし）

金田一京助ほか編『新選国語辞典』新版、1982、小学館（略号『金田一』）

坂本鉄男編『和伊辞典』1988、白水社（略号『白和』）

和田忠彦監修・西川一郎編『和伊中辞典』第2版、2008、小学館（略号『和伊』）

Dizionario Garzanti, francese-italiano, italiano-francese, IX^a ed.1974（略号『伊仏』）

De Felice, E. & Duro, A. : *Dizionario della lingua e civiltà italiana contemporanea*, 1975, Palumbo（略号『F・D』）

Grande dizionario Hazon Garzanti, inglese-italiano, italiano-inglese, XXII^a ed.1976（略号『伊英』）

用例は、「日本語からイタリア語を見た場合」と「イタリア語から日本語を見た場合」とを、双方向から検討する。表中の左端の◎印は、日本語の用例がイタリア語訳でも花語彙となっていることを表わしている。すなわち、日本語例中に「花」という単語、または、（接頭辞・接尾辞としての）「花-」・「-花」という構成要素が存在し、イタリア語例中に「*fior(e)*（単数）」・「*fiori*（複数）」という単語、または、「*fior-*」・「*flor-*」という構成要素が存在していることが対応の条件である。略号の後ろの数字は出現ページ数である。

なお、「花札」と「花道」は、一応用例としては掲げておいたが、イタリア語訳の中に日本語（*hanafuda*, *hanamichi*）が用いられているので不採用とする。そして、第1表の該当箇所の左端に×印を付しておく。もちろん、「花嵐（はなあらし）」・「花冷え（はなびえ）」・「風花（かざはな）」・「波の花（なみのはな）」など多くの花語彙は、上掲辞典中にイタリア語訳が見つからないので割愛する（注4）。

第1表 日本語からイタリア語を見た場合

◎	徒花	<i>fioritura senza frutti</i>	『和伊 27』
◎	活花	<i>arte di disporre i fiori</i>	『和伊 78』
◎	桜花(=桜)	<i>fiori di ciliegio</i>	『和伊 597』
◎	押花	<i>fiore pressato e seccato</i>	『和伊 199』
◎	雄花	<i>fiore staminifero</i>	『和伊 210』
◎	開花	<i>fioritura</i>	『和伊 234』
◎	花器	<i>vaso da fiori</i>	『和伊 256』
◎	花期	<i>stagione della fioritura</i>	『和伊 256』

◎	花卉	pianta fiorifera	『和伊 256』
◎	花瓶	vaso da fiori	『和伊 305』
◎	切花	fiore reciso	『和伊 407』
◎	草花	pianta da fiore	『和伊 427』
◎	献花	offerta di fiori sull'altare o ai morti	『和伊 482』
◎	国花	fiore nazionale	『和伊 548』
◎	造花	fiore artificiale	『和伊 878』
◎	桃花	fiore di pesco	『和伊 1608』
◎	花 ¹	fiore	『和伊 1295』
◎	花 ² (=桜)	fiore di ciliegio	『和伊 597』
◎	花活け	vaso da fiori	『和伊 1295』
◎	花売り娘	fioraia	『和伊 1295』
◎	花籠	cestino di fiori	『和伊 1295』
◎	花言葉	linguaggio dei fiori	『和伊 1296』
◎	花曆	calendario dei fiori	『和伊 1296』
◎	花盛り	piena fioritura	『和伊 1296』
◎	花園	giardino fiorito	『和伊 1298』
◎	花束	mazzo di fiori	『和伊 1298』
◎	花電車	tram addobbato di fiori	『白和 856』
◎	花便り	notizia riguardante i fiori	『和伊 1298』
◎	花鋏	forbici da fiori	『白和 856』
◎	花畑	campo di fiori	『和伊 1298』
◎	花祭り	fiesta dei fiori	『白和 856』
◎	花見	ammirare la fioritura dei ciliegi	『和伊 1298』
◎	花模様	disegni floreali	『和伊 1299』
◎	花屋 ¹ (=店)	negozio di fiori	『和伊 1299』
◎	花屋 ² (=人)	fioraio, fiorista	『和伊 1299』
◎	花輪	ghirlanda di fiori	『和伊 1299』
◎	名花	bel fiore	『和伊 1577』
◎	雌花	fiore pistillifero	『和伊 1586』
◎	盛花	fiori disposti in un vaso	『和伊 1610』
	花押	parafa, sigla	『和伊 252』
	花冠	corolla	『和伊 256』
	花崗岩	granito	『和伊 273』

	花壇	aiuola	『和伊 291』
	花鳥風月	bellezza della natura	『和伊 292』
	花粉	polline	『和伊 307』
	花卉	petalo	『和伊 308』
	花柳界	mondo delle <i>geisha</i> e delle prostitute	『和伊 318』
	花梨	melo cotogno cinese	『和伊 319』
	高嶺の花	una cosa irraggiungibile	『和伊 935』
	花形	vedette, star, asso	『和伊 1296』
	花曇り	tempo nuvoloso primaverile	『和伊 1296』
	花菖蒲	iris del Giappone	『和伊 1297』
	花火	fuoco artificiale	『和伊 1298』
×	花札	le carte <i>hanafuda</i>	『和伊 1298』
	花吹雪	petali di ciliegio trasportati dal vento	『和伊 1298』
	花街	zona delle case di piacere	『和伊 1298』
×	花道	<i>hanamichi</i> , passerella	『和伊 1299』
	花婿	sposo	『和伊 1299』
	花結び	rosetta	『和伊 1299』
	花文字	iniziale ornata	『和伊 1299』
	花嫁	sposa	『和伊 1299』
	火花	scintilla, favilla	『和伊 1359』
	鳳仙花	balsamina	『和伊 1465』
	綿花	cotone grezzo	『和伊 1587』
	落花生	arachide	『和伊 1685』

第2表 イタリア語から日本語を見た場合

◎	cavolfiore	花キャベツ、カリフラワー	『伊和 289』
◎	Città del fiore	花の都(=フィレンツェ)	『伊和 623』
◎	fiorame	花模様	『伊和 623』
◎	fiore	花	『伊和 623』
◎	fiore dell'arte	芸術の花(華)	『伊仏 1376』
◎	fiore della società	社交界の花(華)	『伊英 1377』
◎	fiori appassiti	しぼんだ花	『F-D774』
◎	fiori odorosi	芳香を放つ花	『F-D774』
◎	fiori selvatici	野生の花	『伊英 1377』

◎	fiori senza odore	香りの無い花	『F・D774』
◎	fioricoltore	花卉栽培業者	『伊和 624』
◎	fioriera	花器	『伊和 624』
◎	fiorile	花月(=フランス革命暦の月)	『伊和 624』
◎	fiorista	花売り、花屋	『伊和 624』
◎	fiorita	(祝典で)地面に撒かれた花	『伊和 624』
◎	fioritura ¹	開花	『伊和 624』
◎	fiorone	花形装飾	『伊和 624』
◎	floricoltura	花の栽培	『プ伊和 467』
◎	infiolata	花の絨毯、花を撒き散らすこと	『伊和 776』
◎	infiorescenza	花序、開花	『伊和 776』
◎	infiorettatura ¹	花で飾ること	『伊和 776』
◎	mostra di fiori	花の展覧会、フラワーショウ	『伊英 1377』
◎	rifiorimento	再び開花すること	『伊和 1293』
◎	rifiorita	再び開花すること	『伊和 1293』
◎	rifioritura	再開花、二度咲き	『伊和 1293』
◎	vestito a fiori	花柄の服	『伊和 623』
	defloratore	凌辱者	『伊和 453』
	deflorazione	処女性を奪うこと	『伊和 453』
	fante di fiori	《トランプ》クラブのジャック	『伊英 1377』
	fiordaliso	《植》ヤグルマソウ	『伊和 623』
	fiore d'acqua	水面	『伊英 1377』
	fiore d'arsenico	《化》方砒素華	『伊仏 1376』
	fiore degli anni	青春時代	『伊和 623』
	fiore dell'esercito	軍隊の精鋭	『伊和 623』
	fiore del vino	葡萄酒の表面に浮く白カビ	『伊和 623』
	fiore di farina	極上の小麦粉	『伊和 623』
	fiore di galantuomo	紳士の鑑	『伊和 623』
	fiore di latte	生クリーム	『伊和 623』
	fiore di mascalzone	悪名高きならず者	『伊英 1377』
	fiore di ragazza	美少女	『伊英 1377』
	fiore di zinco	《化》亜鉛華	『伊仏 1376』
	fiore di zolfo	《化》硫黄華	『伊和 623』
	fiore nobile	《植》ミヤマウスユキソウ	『伊和 623』

fiorettatura	文飾	『伊和 623』
fiorettista	(フェンシングの)フルーレの競技者	『伊和 624』
fioretto	(フェンシングの)たんぼ	『伊和 624』
fiori di antimonio	《化》アンチモニー華	『伊英 1377』
fiori retorici	スピーチの華(洗練されたスピーチ)	『伊英 1377』
fiorino	フロリン金貨	『伊和 624』
fioritura ²	フィオリトゥーラ(旋律に施す装飾)	『プ伊和 464』
fioritura ³	吹き出物、発疹	『プ伊和 464』
fiorone	早生イチジク	『伊和 624』
fiorrancino (注5)	《鳥》キクイタダキ	『伊和 624』
fiorrancio	《植》キンセンカ	『伊和 624』
fiorume	干し草の残り	『伊和 624』
flora	植物相	『伊和 629』
floridezza	健康な状態、繁栄	『伊和 629』
florilegio	珠玉集	『伊和 629』
infioratura ²	旋律に装飾音をつけること	『伊和 776』
sfioramento	軽く触れて行くこと	『伊和 1436』
sfioratore	余水路	『伊和 1436』

§3 用例の分析 (1) ——集計結果と対応の構造

まず、前節の資料を基にして、日伊両言語間での花語彙の対応関係についてまとめたものが第3表である。

第3表

対応／非対応	対応	非対応	計
日本語からイタリア語を見た場合	39	24	63
イタリア語から日本語を見た場合	26	35	61

第3表によれば、日本語からイタリア語を見た場合、花語彙が対応しているものが39例(◎印が付されたもの)、非対応のものが24例であった。したがって、対応する花語彙は全体の約62% ($39/63=61.9$) ということになる。一方、イタリア語から日本語を見た場合、花語彙が対応しているものが26例(◎印が付されたもの)、非対応のものが35例であった。したがって、対応する花語彙は全体の約43% ($26/61=42.6$) ということになる。このことは、すなわち、日本語からイタリア語を見た場合のほうが、イタリア語から日本語を見た場合よりも花語彙での対応数が多いということになる。換言すれば、「花」を「fiore」として訳す場合のほうが、「fiore」を「花」として訳す場合よりも数多いということになる。

このほか、特記すべき対応として以下の事項が挙げられる。

- (a) 日本語の「花」もイタリア語の「fiore」も、意味内容としては人間を表わしている場合がある。たとえば、「名花＝美人」「高嶺の花＝憧れの女性」、「fiore della società＝社交界の花(華) (直訳：社会の花)」「fiore dell'esercito＝軍隊の精鋭 (直訳：軍隊の花)」「fiore di mascalzone＝悪名高きならず者 (直訳：悪党の花)」など。
- (b) 日本語の「花」もイタリア語の「fiore」も、花の名前の中に構造的に組み込まれている場合がある。たとえば、「桜花」「桃花」「花菖蒲」「鳳仙花」、「fiore nobile＝ミヤマウスユキソウ」「fiordaliso＝ヤグルマソウ」「fiorrancio＝キンセンカ」など。
- (c) 日本語の「花」もイタリア語の「fiore」も、“精選された最高のもの、最も華やかなもの、美しいもの、繁栄しているもの” という意味を表わす場合がある。たとえば、「花の都」「(駅伝で最も注目される区間の) 花の第〇区」「花形」「社交界の花」、「fiore dell'arte＝最高の芸術 (直訳：芸術の花)」「fiore degli anni＝青春時代 (直訳：年齢の花)」「fiore di farina＝極上の小麦粉 (直訳：小麦粉の花)」「florilegio＝珠玉集」(注6)。
- (d) 当然のことながら、日伊両言語の花語彙には、花の部位・園芸の行われる場所・華道の道具が共通の意味分野として存在する。たとえば、「雄花＝fiore staminifero」「雌花＝fiore pistillifero」、「花園＝giardino fiorito」「花畑＝campo di fiori」、「花瓶＝vaso da fiori」「花鋏＝forbici da fiori」。

§4 用例の分析 (2) ——特記すべき非対応

特記すべき非対応として以下の事項が挙げられる。

- (a) 日本語の「花」は「桜」を表わすことができるが、イタリア語ではできない。イタリア語では、「花」は「fiore」、「桜」は「fiori di ciliegio」である。日本語の「花曇り(＝桜の花の咲く頃の薄曇り)」「花冷え(＝桜の花の咲く頃に来る寒さ)」「花吹雪(＝桜の花びらが吹雪のように散りみだれること)」「花見(＝桜の花を見て楽しむこと)」を参照。
- (b) 日本語の「花屋」は、「花を売っている店」と「花を売っている人」の両方を表わすことができるが、イタリア語では、「花を売っている店」は「negozio di fiori」、「花を売っている人」は「fioraio または fiorista」である。
- (c) 日本語の花語彙には、「花」が接頭辞になっているものが多い。つまり、花語彙から「花」を削除しても語が成立するものが多い。たとえば、「花・籠」「花・言葉」「花・暦」「花・電車」「花・便り」「花・鋏」「花・祭り」「花・婿」「花・嫁」など。
- (d) 日本語の花語彙には、遊興・娯楽・風流の意味分野のものが多数存在する。たとえば、「花柳界」「花街」「花代」「花札」「花合わせ」「花鳥風月」「雪月花」など。
- (e) イタリア語の花語彙には、化学の意味分野のものが多数存在する。たとえば、「fiore d'arsenico＝方砒素華」「fiore di zinco＝亜鉛華」「fiore di zolfo＝硫黄華」「fiori di antimonio＝アンチモニー華」。

- (f) イタリア語の花語彙には、“表面に生じるもの”という意味の語が多数存在する。「fiore d'acqua=水面(直訳:水の花)」「fiore di latte=生クリーム(直訳:ミルクの花)」「fiore del vino=葡萄酒の表面に浮く白カビ(直訳:葡萄酒の花)」「fioritura³=吹き出物、発疹」。
- (g) イタリア語の花語彙には、音楽・スポーツ・貨幣・トランプ・処女性など、日本語には存在しない意味分野のものが幅広く存在する。「fioritura²=旋律にほどこす装飾」「fiorettista=(フェンシングの)フルーレの競技者」「fiorino=フロリン金貨」「fante di fiori=(トランプの)クラブのジャック」「deflorazione=処女性を奪うこと」。

§5 まとめ

最後に、本稿で明らかになった主な事柄を箇条書きにしてまとめておこう。

- (1) 「花」が「fiore」として訳される場合は、花語彙全体の約62%であった。逆に、「fiore」が「花」として訳される場合は、花語彙全体の約43%であった(§3で詳述)。このことは、“花”のほうが「fiore」よりも意味域が狭く、植物としての対応関係が得られやすい。逆に、「fiore」は意味域が多岐に亘っていて、非対応となりやすい(§4の(e)(f)(g)を参照)”ということであろう。
- (2) 日伊両言語間に共通する対応として以下の事項が挙げられる(§3で詳述)。
- ① 「花」も「fiore」も意味内容としては人間を表わしている場合がある。
 - ② 「花」も「fiore」も花の名前の中に構造的に組み込まれている場合がある。
 - ③ 「花」も「fiore」も“精選された最高のもの、最も華やかなもの、美しいもの、繁栄しているもの”という意味を表わす場合がある。
- (3) 日伊両言語間に特記すべき非対応として以下の事項が挙げられる(§4で詳述)。
- ① 「花」は“桜”を表わすことができるが、「fiore」はできない(注7)。
 - ② 「花屋」は、“花を売っている店”と“花を売っている人”の両方を表わすことができる。イタリア語では、“花を売っている店”は「negozio di fiori」、 “花を売っている人”は「fioraio または fiorista」である。
 - ③ 日本語の花語彙には、「花」が接頭辞になっているものが多い。
 - ④ 日本語の花語彙には、遊興・娯楽・風流の意味分野のものが存在する。
 - ⑤ イタリア語の花語彙には、“表面に生じるもの”という意味の語のほか、化学・音楽・スポーツ・貨幣・トランプ・処女性など、日本語には存在しない意味分野のものが幅広く存在する。

注

(注1) 菊(crisantemo)は、イタリアでは、死者を象徴する悲しみの花としてしばしば墓地に飾られる『伊和427』。しかし、日本では、皇室の紋章として貴ばれている。

(注2) これら都道府県の花は、1990年4月27日、「ふるさと切手・花」として47種連刷

シートで発売された。(『日本切手カタログ 2010』 p.140)

(注 3) *fiore* の語末音-e は、熟語的表現などで消失する場合が多い。たとえば、*a fior di*～「～の表面に」。

(注 4) 実は、『金田一』に掲載されている花語彙のうち、イタリア語訳の見つからないものも数多い。「花炭」「花色」「花落ち」「花笠」「花鱈」「花簪」「花氷」「花御座」「花ススキ」「花相撲」「花染め」「花代」「花尽くし」「花時」「花房」「花実」「花守」「花屋敷」「卵の花」「雪月花」「総花」「常花」「梅花」「初花」「百花」「紅花」「餅花」「梨花」「立花」「湯花」など。

(注 5) この鳥には、頭頂に燃えるような赤色の毛が生えており、それを花に見立てて命名されたものと思われる。

(注 6) *fiore* には“微量”という意味も存在する『伊和 623』。“精選された最高のもの”は、当然のことながら、“微量”だからであろう。このことと関連して、グイットーネ・ダレッツォ *Guittone d'Arezzo*(1225-1293)やダンテ・アリギエーリ *Dante Alighieri*(1265-1321)の詩では、*fiore* が“少々、ちよつと”という意味の副詞としても使用されていることに注目すべきである。たとえば、*se fior la penna abborra* 「もし(私の)文体が少々ぞんざいになっているのなら」(ダンテ『神曲』地獄編第 25 歌 144 行目)。

(注 7) 『古今集』の紀貫之の歌、「人はいさ 心もしらず ふるさとは 花ぞ昔の 香に 匂ひける」における「花」は(香りの無い)“桜花”ではなく、“梅花”であると考えられる。

参考文献

『新総合大地図 (創立 60 周年記念)』1982、小学館

日本郵便切手商協同組合編『日本切手カタログ 2010』

Atlante geografico moderno De Agostini, 1986, Novara

Rohlf, G. : *Grammatica storica della lingua italiana e dei suoi dialetti*, vol. III, 1969, Torino

Siebzehner-Vivanti, G. : *Dizionario della Divina Commedia*, 1954, Firenze